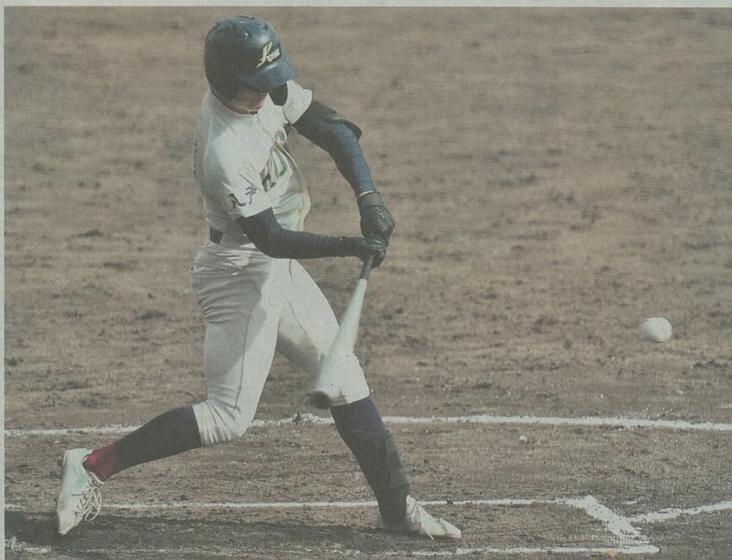


山田高 4強 光 星

第76回 秋季東北 高校野球

第4日



猛攻8得点 洗平完投

第76回秋季東北地区高校野球大会は第4日の19日、秋田県内2球場で準々決勝4試合を行った。県勢は青森山田（第1代表）が2年ぶり、八戸学院光星（第2代表）が5年ぶりに4強入りした。鶴岡東（山形第1代表）と対戦した青森山田は、五回までに11安打で5得点し、櫻田と菊池統の投手リレーで逃げ切った。八学光星

は先発全員の計15安打で日大山形（山形第2代表）に8-1の7回コールド勝。洗平が8奪三振で完投した。20日の休養日を挟み、5日の21日は秋田市のこまスタジアムで青森山田―関学院（岩手第1代表）、八学光星―学法石川（福島第3代表）の準決勝2試合を行った。（本田海輝、棟方好華）

狙い通り 初球捉える

「打の光星」が日大山形の投手陣に計15安打を浴びせ、5年ぶりの4強入りを果たした。二回に左中間を破る適時二塁打を放つなど安打2打点の三上は、連々決勝で絶対勝利を挙げた。チームみんな打撃をつなぎ、もぎ取った1勝と笑顔を見せた。初戦は緊張から動きが硬くなり、4打数1安打に終わった三上。この日は打順を三

【評】八学光星が打撃がかみ合い快勝した。1点を先制し迎えた二回、打で3点を挙げ、突き放す。三上の適時二塁打や、竹田、砂子田の連続適時打で3点を追加。六回に洗平の右前適時打で1点を加えると、七回には渡部

県勢 センバツへ前進

来春の選抜高校野球大会（センバツ）の選考材料となる秋季東北地区高校野球大会で、青森山田と八戸学院光星の県勢2校が4強入りを果たした。東北地区のセンバツ出場枠は3のため、県勢のセンバツ出場の可能性が高まった。センバツの各地区出場枠数は今年、20年ぶりに見直され、東北地区はこれまでの「2」から「3」に1枠増えた。今大会の4強は本県2、岩手1、福島1。これまでの選出

「要所で三振取れた」〇：今夏の甲子園の準々決勝以来の先発となった野田は「落ち着いて試合に入る」ことができた。一、二回打つと、三振三振で7回を失点完投。高めに浮いた球が多かったが、要所で三振を取れたことが大きい」と振り返った。夏の県大会も甲子園での投球による疲労が蓄積し、今秋の県大会では

ずか1イニングのみ登板。投球練習をしながら肩や肘の疲れを振り、東北大大会に照準を合わせてきた。今日（10日）まで森田や岡本が多く登板で調整できたおかげで、この日は打者の膝下に変化球を集め、三振や凡打の山を築いた。打撃でも4打数3安打の活躍。六回には右前へ適時打を放ち、自らを楽にした。

学法石川と対戦する準決勝に向け、「チーム全員で勝ちにいって、登板した0点に抑える」と力強く決意を述べた。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです